

シラバス

指定番号 88
 商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (1)職務の理解 | | | |
|--------------------|---|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 研修のはじめに、介護保険や介護保険外のサービスの概要を学び、また実習を踏まえながら、現場の雰囲気や利用者、職員の実際の様子を見て、介護の職場がどのような現場なのかを体感する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 多様なサービスと理解 | 3 | 3 | | <講義内容> ・「介護」とは何か…社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度と絡めながらの説明 ・介護保険制度の中で利用者が利用できるサービスの種類 ・居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスの違いや役割、特色について ・保険外サービスの種類や具体例 <実習実施内容> ・介護老人保健施設、通所リハビリテーション、看護小規模多機能型居宅介護などの現場見学を通じて実際のサービス提供現場を学ぶ。 |
| ② 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 3 | 3 | | <講義内容> ・居宅、施設の多様な現場における仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ(現場の映像や実際に働く人の体験談から学ぶ) ・ケアプラン作成からサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <実習実施内容> ・介護老人保健施設、通所リハビリテーション、看護小規模多機能型居宅介護などの現場見学を通じて実際のサービス提供現場を学ぶ。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (合計時間数) | 6 | 6 | 0 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・現場の映像のビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 88

商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (2) 介護における尊厳の保持・自立支援 | | | |
|---------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 高齢期を迎えた、あるいは障がいを持った利用者にとって、尊厳のある生活がいかに重要なことであるかを理解する。そのために、介護職が利用者を支援するにあたって熟知しなければならない人権の考え方や介護・福祉サービスに不可欠な基本的諸概念を学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 人権と尊厳を支える介護 | 3 | 1 | 2 | <講義内容> ・個人の人権の尊重の在り方、人権の考え方と歴史、医療福祉分野での人権、QOL の考え方 ・ノーマライゼーション理論について ・高齢者の人権を守る制度、その他の制度 ・虐待防止・身体拘束の禁止について <演習実施方法> 「介護分野における ICF の視点の活用と QOL の向上」について、小グループに分かれてグループディスカッションする <通信学習課題の概要>別紙 |
| ② 自立に向けた介護 | 4 | 1 | 3 | <講義内容> ・自立・自律支援について、具体的な事例を示しながら、重要性を説明 ・意欲やモチベーションの高め方、個別化について ・介護予防の考え方、介護予防の視点・介護予防特定高齢者施策 <演習実施方法> 利用者の事例についての具体的な自立支援の方法を小グループに分かれグループディスカッションする <通信学習課題の概要>別紙 |
| ③ 人権啓発に係る基礎知識 | 2 | 2 | | <講義内容> ・「人権とは」制度や歴史的背景も含め学習する。 ・高齢者の人権・障がい者の人権・その他の人権問題 ・事例や体験談も含めた人権への取り組みの説明 |
| | | | | |
| | | | | |
| (合計時間数) | 9 | 4 | 5 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン ・模造紙・マジック等 |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

88

商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (3) 介護の基本 | | | |
|-------------------------|---|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 介護職として、自立支援にむけた専門性を学習し、チームケアにおいて連携する職種とチームアプローチの技術を習得する。また、ハンディキャップをもつ利用者を支える介護職側のリスクや自己を防止できる知識と技術を習得する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 2 | 1 | 1 | <講義内容> ・介護環境の特徴と理解 少子高齢化社会と介護システム ・地域包括ケアの方向性 ・介護職の役割の理解 (利用者本位の視点と自立支援) ・潜在能力や意欲を引き出す介護、根拠ある介護の提供 ・様々なチームケアの重要性 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ② 介護職の職業倫理 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・介護職としての職業倫理を理解し、介護実践に反映できるようにする 介護福祉士会倫理要綱・ヘルパー憲章等 <演習実施方法> ・演習手法：「倫理」とは何か、なぜ「倫理」が必要とされるのかを、利用者目線で考えるために、具体的な事例を用いたグループディスカッションを行う <通信学習課題の概要>別紙 |
| ③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2 | 1 | 1 | <講義内容> ・介護事故の要因になりやすい高齢者の特性と対応 ・現場で実施できるリスクアセスメント方法について (ひやりはっと等) ・感染対策について ・緊急時の対応法 |
| ④ 介護職の安全 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・ストレスマネジメント ・腰痛予防 ・手洗い・うがいの正しい方法等 <通信学習課題の概要>別紙 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン ・模造紙・マジック等 |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

88

商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 | | | |
|------------------------|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 介護職としての必要不可欠な介護保険制度と障がい者総合支援制度を理解し、目的やサービス利用の流れ、制度を支える各サービスの内容、最近の制度の動向、その概要をサービス提供の立場から把握し、利用者等へ説明できるレベルまで学習する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護保険制度 | 3 | 0.5 | 2.5 | <講義内容> ・介護保険制度の創設の背景及び目的、動向 地域包括ケアシステム ・介護保険制度のしくみ <通信学習課題の概要>別紙 |
| ② 医療との連携とリハビリテーション | 3 | 0.5 | 2.5 | <講義内容> ・介護と福祉や医療との連携について ・介護が行える医行為、リハビリテーションについて ・医療職が行う医療行為と介護職の医行為の境界線の説明 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ③ 障がい者総合事業支援制度およびその他制度 | 3 | 0.5 | 2.5 | <講義内容> ・障がい者自立支援制度の具体的な解説(理念、概念、対象、市町村の役割、サービスの種類と内容) ・個人の権利を守るその他の制度(生活保護制度、成年後見人制度、日常生活自立支援事業等) <通信学習課題の概要>別紙 |
| (合計時間数) | 9 | 1.5 | 7.5 | |

| | |
|------------|------------------------------|
| 使用する機器・備品等 | ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン |
|------------|------------------------------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 88
 商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (5)介護におけるコミュニケーション技術 | | | |
|----------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 自立支援の専門職として障がい者やまたはその家族とのコミュニケーションに必要な知識と技術を習得する。またチームケアにおけるコミュニケーションの重要性を理解し、記録・報告などの専門的知識と技術を学ぶ。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 介護におけるコミュニケーション | 3 | 1.5 | 1.5 | <講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・障がい（言語・視覚・聴覚等）特性別コミュニケーションの留意点 ・介護職の基本的態度としての「傾聴」「受容」「共感的理解」の技術の習得 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・通信学習課程の概要>別紙 |
| ②介護におけるチームのコミュニケーション | 3 | 1.5 | 1.5 | <講義内容> ・介護におけるチームケア・ケアカンファレンスの重要性について ・報告・連絡・相談の留意点と記録の技術について ・記録における情報の共有化の実際 <演習実施方法> ・事例を用いてグループワークにて個別援助計画を作成する。 <通信学習課程の概要>別紙 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン ・模造紙・マジック等 ・コミュニケーションに用いる道具 ・介護アセスメント・ケアカンファレンス等の記録用紙 |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 88
商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (6) 老化の理解 | | | |
|----------------------|---|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 高齢者の加齢・老化に伴う心身の変化と日常生活への影響を理解する。また、高齢者に多い疾病と生活上の留意点を学習し、高齢者の自立を支援する介護職としての基本的知識を習得する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 3 | 1.5 | 1.5 | <講義内容> ・ライフサイクル理論における老年期の老化に伴う心身の変化 ・老化に伴う機能の変化及び外見の変化(知能・記憶・知覚・身体機能等)と日常生活への影響 ・死生観の確立と自己実現 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ② 高齢者と健康 | 3 | 1.5 | 1.5 | <講義内容> ・高齢者の身体的老化と生活上の留意点(筋力低下・姿勢の変化・骨折・関節痛等) ・高齢者に多い疾病と対策(循環器障がい・老人性うつ・心気症・仮性認知症・誤嚥性肺炎等) ・高齢者特有の症状の現れ方と気づきの手がかかり <通信学習課題の概要>別紙> |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------------------------------|
| 使用する機器・備品等 | ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン |
|------------|------------------------------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 88
 商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (7) 認知症の理解 | | | |
|-------------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 認知症高齢者の尊厳を守るためにその世界観を知り、認知症の概念と健康管理を学び、認知症の症状および原因疾患、家族への支援を考慮し、介護職として増加する認知症高齢者の適切なケアと支援されるべき人、利用者として尊厳のある支援を提供できることを目的とする。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 認知症を取り巻く状況 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・認知症ケアの理念について ・認知症の具体的なケースを知り、認知症介護における原則理解の必要性を認識する。 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 2 | 1 | 1 | <講義内容> ・認知症の医学的定義、評価スケール・原因疾患別認知症の種類と病態別ケアのポイント ・認知症と良性老年期健忘との忘れ方の違い・紛らわしい疾患 ・薬物療法・非薬物療法（認知症に対する心理学的援助方法） <通信学習課題の概要>別紙 |
| ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 2 | 1 | 1 | <講義内容> ・認知症の中核症状と行動・心理症状 ・BPSDの種類と対処、誘因となる不適切なケアや環境 ・認知症の進行に合わせた世界観の理解や多様なコミュニケーション方法。 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ⑤ 家族への支援 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・認知症の介護家族に対するアセスメントの重要性や・ストレスについて ・エンパワメントの重要性とレスパイト・ケアの実態 <通信学習課題の概要>別紙 |
| (合計時間数) | 6 | 3 | 3 | |

| | |
|------------|------------------------------|
| 使用する機器・備品等 | ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン |
|------------|------------------------------|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 88
 商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (8) 障がいの理解 | | | |
|---|--|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 障害の概念 (ICF など) と制度、基本的な考え方などを理解し、さらに具体的な障がいの症状や介護の留意点などを学習することにより、介護職として高齢者や障がい者の身体的・精神的ハンディキャップを援助する実践力を養うことを目標とする。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 障がいの基礎的理解 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・ ICF の分類や ICDH からの改正ポイントについて ・ ICF の視点による援助 ・ 障がいの医学的分類 ・ ノーマライゼーション理論について、個人の尊重、生活の質 (QOL) の向上 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・ 障がいの医学的側面と生活障がいについて ・ それぞれの障がいの特性による、コミュニケーション法や心理・行動の援助のポイント ・ 療育の視点の重要性及びライフサイクル理論を考慮した援助 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ③家族の心理、かかわり支援の理解 | 1 | 0.5 | 0.5 | <講義内容> ・ 家族の障がいの受容課程と意思の理解 ・ 介護職と家族のラポールの形成について ・ 介護負担とレスパイト・ケア ・ 利用者本人と家族へのコミュニケーション支援の理解 <通信学習課題の概要>別紙 |
| | | | | |
| | | | | |
| (合計時間数) | 3 | 1.5 | 1.5 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン ・ 白杖・アイマスク、片麻痺疑似体験具等 |
|------------|---|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 88

商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (9) こころとからだのしくみと生活支援技術 | | | |
|-----------------------|--|-------------------|-------------------|---|
| 指導目標 | 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ア①介護の基本的な考え方 | 4.5 | 3 | 1.5 | <講義内容> ・介護に関する専門的知識・技術の必要性と求められる介護士像について ・法的根拠に基づく介護 ・倫理に基づく介護、我流介護の排除 ・利用者主体の介護とは ・生活障がいの改善・QOL 向上の視点について <演習実施方法> ・事例に基づいたグループワーク等 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ア②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3 | 2 | 1 | <講義内容> ・記憶・学習の基礎知識・感情と意欲の基礎知識 ・老年期の自己概念と生きがい ・老化への適応 ・障がいの受容過程と価値転換に向けての援助 ・障がいの自己受容と社会受容 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 <演習実施方法> ・事例に基づいたグループワーク・ロールプレイ等 <通信学習課題の概要>別紙 |
| ア③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 2.5 | 2 | 0.5 | <講義内容> ・人体の構造と機能（人体の解剖に関わる用語・運動の用語） ・バイタルサインについて ・骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中核神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・高齢者の健康と老化（QOL・ADL・IADL）の評価と維持向上について ・こころとからだを一体的にとらえる。 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <演習実施方法> ・グループワーク・ロールプレイ等 <通信学習課題の概要>別紙 |
| イ④生活と家事 | 2.5 | 2 | 0.5 | <講義内容> ・家事援助についての基礎知識 ・個々の生活歴や多様な価値観・生活習慣の尊重の重要性 ・主体性能動性を引き出す自立支援 ・疾患別調理の工夫 <演習実施方法> ・介護ベッドを使ったベッドメイキング ・調理支援のためのグループワーク <通信学習課題の概要>別紙 |

| | | | | |
|------------------------------------|-----|---|-----|---|
| イ⑤快適な居住環境整備と介護 | 3.5 | 3 | 0.5 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者特有の快適な居住環境の整備と福祉用具 ・福祉用具に関する留意点と支援方法 ・バリアフリーとユニバーサルデザインの基礎知識と事例紹介 ・高齢者・障がい者に多い家庭内での事故の実例紹介 <p><演習実施方法></p> <p>具体的な利用者の事例を用いて、行動特性や安全に配慮した快適な環境整備の工夫を小グループでディスカッションする</p> <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 4 | 3 | 1 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識（意義や目的・支援方法と留意点） ・身体状況に合わせた衣服の選択 ・口腔ケアと義歯の基礎知識 <p><演習実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・着脱の実技指導（ベッド上での半介助・全介助のパジャマ・浴衣交換） ・モーニングケアの実技指導 <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 11 | 9 | 2 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・自立支援につながる移動・移乗介護の重要性 ・利用者に負担の少ない移動・移乗の方法 ・移動・移乗時の補助具（車椅子や杖、スライディングボード、リフト等）の説明 ・社会参加の留意点 <p><演習実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクス（人間の自然な動作の活用）・良肢位・体位の実技指導 ・安楽な体位・褥瘡予防の実技指導 ・ベッド上の体位返還の実技指導 ・車椅子の基本構造・名称と点検の実技指導 ・車椅子の移乗（半介助・全介助のベッド・ポータブルトイレ⇄車椅子）の実技指導 ・車椅子の移動（乗車）の実技指導 ・視覚障がい者の歩行の介護の実技指導 <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.5 | 6 | 0.5 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識（意味・環境整備・福祉用具の活用等） ・食事のケアに対する介護者の意識 ・豊かな食事介助の視点 ・低栄養と脱水のリスク ・嚥下・咀嚼のメカニズムと利用者にあった食事形態 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <p><演習内実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の生活機器（食器等）を使った演習 ・姿勢の整え方及びベッド上での食事介助の実技指導（誤嚥性肺炎の予防） ・視覚障がい者の食事介助の実技指導 <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑨入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 10 | 9 | 1 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持の基礎知識 ・入浴用具活用法 ・入浴時のリスク軽減の為の留意点（環境整備・バイタルサイン測定等含む） ・羞恥心や遠慮への配慮 ・陰部洗浄（臥床状態での方法） ・目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア ・足浴・手浴・洗髪 <p><実技講習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易浴槽での安全な入浴介助の実技指導 ・ベッド上での全身清拭の実技指導 ・ベッド上での洗髪の実技指導 |

| | | | | |
|-------------------------------|------|------|------|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド上での部分浴（手浴・足浴）の実技指導 ・ベッド上での陰部洗浄の実技指導 ・目・鼻・耳・爪の清潔方法とスキンケア <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6.5 | 6 | 0.5 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識（身体面・精神面・社会面での意味） ・排泄障がい日常生活上の影響、心理的負担・便秘の予防等） ・自尊心・羞恥心への配慮（プライバシーの確保） ・おむつは最後の手段・おむつ使用の弊害 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 <p><実技演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する福祉用具を使った演習 ・おむつ交換の実技指導 ・褥瘡予防のための配慮 <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 4 | 3 | 1 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・安眠の為の介護の工夫と環境整備（温度・湿度・光・音・寝室・寝具） ・安楽な姿勢・褥瘡予防 <p><実技演習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を使ったグループワーク・ロールプレイ等 ・ベッドメイキングの復習等 <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| イ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 5 | 3 | 2 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識（ターミナルケア・緩和ケア） ・死の受容と死生観の確立 ・高齢者に多い死の原因と兆候 ・高齢者の死に至る過程（自然死・癌死） ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護職の基本的態度と多職種との連携 <p><実技学習内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアの理解とシュミレーション・ロールプレイ ・事例を使ったグループワーク <p><通信学習課題の概要>別紙</p> |
| ウ⑬介護過程の基礎的理解 | 3 | 3 | 0 | <p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護課過程のアセスメント・目的・意義・展開 ・チームケアの視点について <p><事例による展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な利用者の事例（生活場面・障がい状況の異なる事例）を用いて、それぞれの介護過程のアセスメント・目的・意義・展開、留意点・チームアプローチの方法等をロールプレイング・グループワークで学習 |
| ウ⑭総合生活支援技術演習 | 9 | 9 | 0 | <p><事例による展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な利用者の事例を用いて、(事例の提示→アセスメント→適切なアプローチの検討→支援実技演習→振り返り→課題のまとめ)を実施し一連の生活支援を提供する流れの理解と技術を習得する ・高齢者・障がいの事例 <p>※高齢者（認知症・失語症・片麻痺・パーキンソン病・関節リュウマチの中から選択）</p> <p>※障がい者（肢体不自由・視覚障がい・知的障がい・視覚障がいの中から選択）</p> |
| (合計時間数) | 75.0 | 63.0 | 12.0 | |

| | |
|------------|---|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護用ベッド・車椅子・歩行器・スライディングボード・介助用ベルト・ポータブルトイレ・クッション・タオル・調理用補助具・食器類・スプーン・箸・フォーク・食事用自助具・尿器・各種おむつ・パット・バスタオル・寝巻き・着脱しやすい衣類・簡易浴槽・シャワーチェア・滑り止めマット・洗面器・バケツ・入浴用品・ビニールシート・ビニール袋・ピッチャー・ケリーパッド（バスタオル）・ドライヤー・湯温計・歯ブラシ・整容用品・ウオッシュクロス・防水シーツ・シーツ・枕・枕カバー・介助バー・各種杖・椅子・アイマスク・白杖・三角筋・包帯・ガーゼ・高齢者疑似体験キット ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン・模造紙・マジック等 |
|------------|---|

シラバス

指定番号

88

商号又は名称：特定非営利活動法人結いの会ともうず

| 科目番号・科目名 | (10) 振り返り | | | |
|----------------------|---|-------------------|-------------------|--|
| 指導目標 | 研修全体を振り返り、本講座で学んだことについて再認識を行う。また、実習をおこなうことにより修学との差異を認識し、福祉での実際の現場で活動できる適性を考え、就職につなげるようにする。さらに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 | | | |
| 項目番号・項目名 | 時間数 | うち 通学学習 時間数 | うち 通信学習 時間数 | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可) |
| ① 振り返り | 3 | 3 | | <講義内容> ・研修を振り返って学んだこと（初めて知り理解した事、今まで気付かずにいて気付いた事、これから介護職員として働くにあたって大切だと思う事等）各自どれか一つを選択して記述・発表する ・講師は受講生の発表の中からポイントを拾い、これまでの研修の復習・確認となる部分の内容を講義。 ・受講生一人ひとりの今後の課題をシートにまとめる <実習実施内容> ・介護老人保健施設、通所リハビリテーション、看護小規模多機能型居宅介護などの現場見学を通じて実際に行われている介護や生活支援について学ぶ。 |
| ② 就業への備えと研修終了後における実例 | 1 | 1 | | <講義内容> ・介護職としてのマナー・接遇について ・介護職の働く現場や仕事内容をリアルにイメージしてもらい、学ぶ前と学んだ後の違いも実感させる ・また、質疑応答にて就業の備えとする <実習実施内容> ・介護老人保健施設、通所リハビリテーション、看護小規模多機能型居宅介護などの現場見学を通じて実際に行われている介護や生活支援について学ぶ。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (合計時間数) | 4 | 4 | 0 | |

| | |
|------------|--|
| 使用する機器・備品等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオまたはパワーポイント・プロジェクター・スクリーン ・模造紙・マジック等 |
|------------|--|

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。